



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303

TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395

E-mail:info@baj-npo.org

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン



www.baj-npo.org

BAJで検索!▼

BAJ



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2024年1月1日～12月31日

2024年度



2025年7月1日 発刊

2021年～2024年度の海外活動

2021年2月にミャンマー国内で起きた軍事クーデターから内戦が激化の一途をたどり、ラカイン州では2024年度4月頃から実質活動が不可能となりました。一方、中央乾燥地域の深井戸修繕を中心とした生活用水供給事業は、MOU(覚書)調印が遅れたものの、対象村落調査や研修事業を実施することができました。また、ヤンゴン事務所では昨年に続きBook&Toyミニライブラリー事業を郊外の養護施設や孤児院などにて実施しました。

in Myanmar

ミャンマー・ラカイン事業事業 マウンドー事務所

事業名	内容	2021年	2022年	2023年	2024年
車両・ポートなどの修理・整備	台数	562台	180台	23台	23台
	車両整備時間	2,692時間	1,033時間	3,258時間	601時間
公共施設建設	小中学校校舎修繕	1校	中断	中断	中断
	公共施設建設	10棟	中断	中断	中断
	貯水池修繕	5か所	中断	中断	中断
	井戸掘削建設・修繕	4本	8本中断	1本(HCR内)	—
マウンドー総合病院	トイレ・給水塔・他	—	—	5か所	発電機整備のみ
アングモ桟橋修繕				中断	中断
燃料のろ過	ガソリン	24,575ガロン	25,333ガロン	20,802ガロン	3,064ガロン
裁縫訓練	参加人数	—	20名	20名	中断
インフラ整備	カルバート建設	4本	7本	—	—
	アクセス道路建設	4本	2本	—	—
	ソーラーパネル設置	62か所	—	—	—
	橋・道路建設	4本	2本	—	—
	井戸修繕	中断	中断	中断	中断

中央乾燥地域事業

事業名	内容	2024年
深井戸修繕を中心とした生活用水供給事業	事業対象村落調査	10か村
	技術職員向け研修	3日間40人参加
	村落住民向け運営・技術研修	3日間30人参加

ヤンゴン事業事業

事業名	内容	2022年	2023年	2024年
Book&Toy ミニライブラリー	本・おもちゃ棚寄贈	5施設	3施設	2施設

in Vietnam

ベトナム事業 フ工事務所

2024年は、例年の活動に加えて、日本の教育現場との交流を通じて環境教育の活動の質を上げていく事業が本格的にスタートしました。エコツーリズム事業は年間を通して3つのグループをベトナムで受け入れました。なかでも貧困地域の子どもたちを対象に有価物の回収や勉強の補修など実施した当時の子どもたちが、現在はそれぞれ成長して立派に働いている様子が分かり、この事業を継続してきた喜びを感じることができました。フ工の消費者向けにも農家ツアーを実施しました。

事業名	2021年	2022年	2023年	2024年
環境授業実施	24回実施、622人参加	20回実施、576人参加	29回、440人参加	28回、796人参加
奨学金授与	55名、2,350万VND	70万ドン、3,100万VND	55名、1,300万VND	55名、1,300万VND
直売所運営・売上	11,362,604円	9,548,847円	10,740,344円	10,362,824円
エコツーリズム実施	3件中止(オンライン)	2件、37名(オンライン)	3件、20名	4件、79名
VN支援東京会議	11回、29名参加	14回、39名参加	10回、23名参加	16回、39名参加

ごあいさつ

2024年は内戦が深刻化するミャンマー情勢にあり、活動の進め方に苦慮した1年となりました。とくにミャンマー軍のNGOに対する規制は厳しく、MOU(覚書)がない状態のBAJには移動許可が下りず、事業遂行は困難となりました。一方で、村落開発局との交渉は着実に進捗し、中央乾燥地域の水供給事業については2024年内に村落住民向けの井戸維持管理研修を実施することができました。また年末には懸案だったMOU取得ができ、2025年からいよいよ本格的に事業ができるようになりました。

8月、アラカン軍(AA)は、BAJ本拠地であるラカイン州マウンドー郡の占領戦に至り、翌年の2025年には、マウンドー最後の拠点となった国家行政評議会(SAC)軍基地を攻略し、ラカイン州全域の占領を完了させた。AA(アラカン軍)政治部門であるアラカン連盟(ULA)が実効支配しています。依然として夜間外出禁止令、ビルマ地域との交通遮断、停電やインターネット不通、銀行閉業といった状況も続いています。

また避難民が町や村に帰りはじめしており、帰還の手続きが簡略化されて自宅に戻る人が増え、生活再建がはじまっています。

しかし住民が増えるにつれ、地雷や不発弾による被害が増えています。さらに近隣村落では、AAとロヒンギャ武装組織との戦闘が散発し、市街では窃盗が横行してAAが巡回警備と犯人逮捕を進めています。

BAJはAA当局の許可のもと、マウンドー事務所に守衛を配置し、事務所の警備と残留備品の保全を始めました。2025年度以降

は、戦闘が止んでSAC(国家行政評議会)軍と少数民族武装グループ・アラカン軍双方の合意が結ばれない限り、BAJは動くことができません。UNHCRは「次年度以降、BAJと複数年のパートナー契約は結ぶが、金銭的コミットメントはない」と告げられており、2025年は最低限の人材で事務所を維持する方針です。

ベトナム事業では、小中学生を対象に進めてきた環境授業について、日本の駒場東邦中学高校や環境問題を考える生徒や学生のグループと共同して、交流事業や現地での環境授業など、新たな試みが始まりました。プラスチックの海洋汚染や気候変動など国を超えた環境問題に対し、若い人が国境を超えて問題を意識し共有することが重要と考えています。東京事務所は2024年6月に認定NPO法人の更新手続きを無事終えました。また古着リサイクル「フルクル」では7月に千葉紙業との間で古着回収拠点の合意を結ぶことができ、東日本集荷のフルクル送り先を新たに設けることができました。また広報関連ではホームページを8年ぶりにリニューアルし、8月下旬に公開となりました。ぜひご覧いただきご意見などお寄せください。2025年もどうぞBAJの活動をお見守りください。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
代表 根本 悅子

BAJの4つの使命

1

技術習得や
能力強化の
機会を提供します

1

2

収入向上を
支援します

2

3

地域発展
のための
環境基盤の
整備を進めます

3

4

環境を守り
啓発活動を
進めます



The Four Commitments of BAJ

MYANMAR



海外支援事業

ミャンマーの活動

2023年11月にはじまったアラカン軍(AA)によるラカイン州占領戦がマウンドーに及び、2024年1月には「SAC(国家行政評議会)軍によりラカイン州は封鎖され、物流、インターネットや電話の遮断、全銀行の閉業、さらに物価高騰、燃油価格高騰など、開戦前の数倍に上昇しました。その結果マウンドーは、3月には役所や学校、病院の職員が退避し、残された建屋はSAC軍の駐屯所となりました。また国連機関やNGOの職員はマウンドーから避難し、6月にはAA軍によるマウンドー市街占領戦を開始しました。

一方SAC軍は市街防衛のため住宅やNGO事務所の接收と陣地化、地雷敷設や橋脚破壊などを進めました。同時にSAC兵による強盗、殺人、住民逮捕と強制徴用、集落焼き払いがおこなわれ、さらに市街隣接地や近隣村落の空爆や砲撃を続け、逃げられないムスリム以外の住民は町を脱出しました。

8月、AA軍の占領戦が本格化し、バングラデシュへの脱出を試みたムスリム住民数百人が、AA軍のドローンにより虐殺されたとの報道や、SAC軍の空爆による住民の大量死などの報道がありました。その後AA軍はムスリム住民数千人を北部の村に移送し、市街はAA軍の管理下に入りました。SAC軍は市街近接の国境警備隊(BGP)基地に退却してろう城戦を続け、基地周辺と市街を空爆・砲撃し続け、マウンドー市街は大規模に破壊されました。12月8日、AA軍はBGP基地を攻略し、マウンドー郡全域の占領を完了しました。2025年1月には空爆・砲撃が漸減し、住民帰還が始まりましたが、地雷被害が散発しています。

マウンドー事務所の勤務体制を1月より半日出勤とし、車両等整備事を5月まで継続ましたが、計画した事業を進めることができませんでした。4月に守衛を残して職員の出勤停止とし、そ



れぞれ村落部やヤンゴンに脱出しました。8月には町に残っていたムスリムがAA軍によって市外に移送され、事務所の様子確認はできませんが、複数回被弾し、盗難被害にもあったようです。

中央乾燥地域の水供給事業について、3月に外務省NGO連携無償資金協力(N連)に採択され、元BAJスタッフによる現地パートナー組織National Water Service Group (NWSG)との協働事業を開始しました。しかしMOU締結が遅れ、活動に着手できず、7月、10月にネピドーに出向きてカウンターパートの村落開発局(DRD)と相談し、研修などの許可を得て一部活動が実施できました。また12月末にMOUが取得でき、10村の井戸修繕を開始しました。

ヤンゴン事務所の「Book & Toyミニライブラリー事業」は5月にDRD許可のもと、施設に寄贈し、行政関係者も出席して贈呈式を実施しました。7月、これまでの寄贈施設のモニタリングを実施し、追加的な支援を進め、10月には民間養護施設に図書棚一式を寄贈しました。

管理運営面は、チャット安と物価高騰が続き、国際間の銀行送金の現地引出について5月以降政府機関との覚書提出が求められるようになり、その時点で取得できていなかったため海外送金については、ハンドキャリーなどあらゆる手段を選択肢に含めなければなりません。

1. ラカイン州の活動

資金 : UNHCR

1. 車両など機械類の整備事業

UNHCRが所有する車両、モーターボート、発電機などの修理・整備と、燃料ろ過サービスを通してUNHCRの活動を支える事業ですが、ブティダウンやシトウェにあるモーターボート修理については職員がマウンドーから出られず、整備を実施できませんでした。ほかにUNHCRの依頼でマウンドー総合病院の発電機整備を2月に進め、また活動再開に備えてBAJ所有車両の大規模修繕と整備を4月まで進めました。その結果年間整備作業量は大幅に減少し、技術ワークショップを5月に閉業し、9月にはラカイン州事業の中止をUNHCRと合意しました。

2. 支援ニーズ即応事業

村落部の生活改善を目指して進めてきたコミュニティーフラ整備事業は、就労機会のない村落部に雇用を生み出してきました。しかしこちらもMOU取得が進まないため村落への移動許可が壁となって実施できず、さらに「給水・衛生施設改善事業」「UNHCR倉庫管理事業」は、治安悪化とSACの許可が得られず、実施できませんでした。

3. 裁縫訓練を通じた女性の能力開発事業

資金 : 自己資金

貧困女性が生計改善と自律の機会を得ること、共に学ぶことで多民族間の融和を促すことを目的に、裁縫訓練と家族や女性に関わる健康教育を進めてきましたが、マウンドーの治安が回復せず実施できませんでした。

4. マウンドー事務所管理・運営

ヤンゴンおよびマウンドー職員の個別対応は、不安定なネット環境のなかで進めなければならず困難を極めました。2024年度末の現地職員数は、前年度末から36名減の9名としました。2025年度はUNHCR予算が獲得できず、1月のマウンドー事務所は非常勤雇用の2名となっています。

5. 研修

職員の業務意欲の維持を目的に、オンラインを活用して以下の内容で研修を実施しました。

日程	内容(主催)
3月 13日	水・公衆衛生・衛生習慣に関する緊急事業概論(UNICEF)
8月 15日	市民権に関する研修(UNHCR)
8月 26~30日	国際人道支援の基礎研修(UNHCR)
9月 18日	倉庫管理研修・座学(UNHCR)
9月 19日	倉庫管理研修・実地(UNHCR)
9月 19日	調達活動に関する研修(UNHCR)
10月 23~25日	PCM研修(JICAミャンマー)
11月 27日	性的搾取と虐待からの保護再教育(UNHCR)



2024年7月時のマウンドー事務所(まだ破壊を免れていた頃)

6. UNHCR業務管理

UNHCRに対し、2023年度事業の最終報告書、2024年度の活動報告、付随する中間報告を提出し、隔週会議と緊急会議で業務調整と情報共有をおこないました。内戦とSAC当局の規制の動向を背景に、UNHCRからは事業と予算の計画変更を求められ、BAJはAA管理地で実施可能な計画策定のため、調査と内部会議を頻繁に開催することになりました。UNHCRからは契約外の臨時/緊急の報告書や購入資材の詳細なリスト、事業継続計画書、東京を含む全職員の契約書類、現状評価書、残留資産の扱い文書、リスク登録・評価書などを求められ、対応しました。

マウンドーから避難したUNHCRは、現場で起ている移動や許認可の不自由、通信の困難を理解せず、短納期のさまざまな書類提出を求められ、対応に苦慮しました。

BAJは、今期の契約から削除された支援ニーズ即応事業のうち、桟橋修繕事業用に保管した資材について、UNHCRの了承を得てラティダウンの僧院内にある国内避難民キャンプに寄贈し、さらにシトウェの倉庫に保管していた資材も他援助団体へ引き渡しました。10月に、2025年は「パートナー関係の維持のみで予算措置はない」旨の通知をUNHCRから受け取りました。

2025年のマウンドー事務所は砲撃や盗難の報告受けています。2025年5月現在、AAによる実効支配が継続しています。

7.2024年に開催された会議・打ち合わせなど

2024年は戦況がラカイン州に及び、当地で活動する国際機関やNGO間で定例会議が実施され、多くの時間を割くことになりました。会議の頻度は無視して会議名の一覧は以下。

会議名	内容
1 JNN大使館安全連絡会議	ミャンマー・ラカイン州治安情報
2 ラカインNEXUS作業部会	UNHCR HCR要望への対策
3 UNHCR連絡会議	ミャンマー・ラカイン事業
4 日本大使館安全連絡会議	ミャンマー・ラカイン州治安情勢情報
5 UNHCR外部監査説明会	外部監査について
6 難民帰還統合グループ会議	ミャンマー帰還難民対応
7 ラカイン州MGD事務所会議	BAJのラカイン対応について
8 契約変更・避難者労務管理打合せ	ミャンマーMGD事務所
9 契約変更・避難者労務告知打合せ	BAJラカインMGD事務所人事
10 ラカイン調整グループ会議	HCR
11 予算修正打合せ	今後のBAJ事業予算について
12 UNHCR要求事項対応会議	対UNHCR対策
13 UNHCR計画変更対応会議	BAJ・MGD事務所事業の今後
14 ミャンマーNGO駐在員会	ミャンマー治安情報など
15 MGD諸機関グループ会議	
16 ミャンマー戦況悪化対応打合せ	BAJ-MGD事業対策
17 会計モニタリング会議	BAJ-会計報告
18 UNHCR内部監査緊急回答打合せ	BAJ-MGD事業対策
19 UNHCR計画変更対応策打合せ	BAJ-MGD事業対策
20 JICAミャンマー定期打合せ	ミャンマーでの新事業の可能性検討
21 UNHCR計画変更対応案打合せ	BAJ-MGD事業対策
22 ミャンマー調達調整会議	BAJ-調達案件
23 UNHCR調達ガイドライン会議	調達規定
24 マウンドー調達調整会議	BAJ-MGD事務所打合せ
25 ミャンマー調達ガイドライン会議	BAJ-YNG事務所打合せ
26 新規WASH事業打合せ	BAJ-MGD職員対応
27 監査修了会議	BAJ監査指摘案件について
28 下期事業計画変更会議	ミャンマー・BAJ事業計画下期事業変更会議
29 Proms第2・3フェーズ研修	BAJ・研修
30 ミャンマーダ下期事業変更計画変更会議	BAJ-ラカイン州事業変更
31 マウンドー管理会議	BAJ-事業計画など
32 ミャンマー事業継続計画会議	BAJ-事業計画
33 ミャンマー労務面談	BAJ-職員面談
34 UNHCR事業方針説明会	BAJ-職員契約方針
35 UNHCR事業検討会議	BAJ-今後の事業進捗
36 会計モニタリング会議	BAJ-会計情報確認
37 UNHCR/PCU両替打合せ	BAJ-事業資金送金

(右写真説明)

①②空爆を避けるため事務所や倉庫の屋根にBAJロゴやUNロゴ、日本国旗などをペイント

③修繕工事中止となったアングモ桟橋の建築資材を地元グループに寄贈、

マウンドー事務所は1月より半日出勤、4月以降出勤停止に

④7月、事務所に砲撃の被害

⑤8月、市街戦が勃発しマウンドー事務所が両陣営の激戦地に

⑥事務所の資機材や車両がほぼ全て破壊された。事務所に現地職員が再び訪れることができたのは2025年4月

⑦車両部品類、タイヤ、地質探査機械、建築資材、裁縫教室用のミシン等、あらゆる資機材が盗難にあった



2.中央乾燥地域・生活用水供給事業

資金：外務省NGO連携無償資金協力金(N連)、自己資金

2024年3月に承認された本事業開始後、事業現地パートナー団体NWSGと準備を進め、5月からヤンゴン・東京・中央乾燥地域間のオンライン週会議を進め、7月には事務局長が出張し、ヤンゴン事務所のアドミニストレーターと調達担当者の2名を同行して、協働団体であるNWSG代表と事業計画と進捗について会議を実施し、加えてカウンターパートの村落開発局(DRD)と協議を行ないました。その結果、ようやく村落部での現地調査が叶い、N連事業対象村落の選定を行ないました。

現地調査の対象村は右記。

対象村落を決定したもののMOU取得が遅れて実施に至らず、事態打開のため10月に再度ネピドーに出向き、DRD局長らと会議。その結果、深井戸修繕以外の研修やワークショップ実施の許可を得ることができました。10月29日よりオンラインを交えてワークショップを開始しました。内容は以下。

日程		
10月 29日	須藤 宏 オンライン U Min Lwin	地質調査 基礎講座、中央乾燥地域の地質、砂ダム砂ダムの基礎理論、選定方法
10月 30日	U Aung Gyi	砂ダムの建設方法、砂ダムの設計と実践経験の共有
10月 31日	U Aung Shein	深井戸修繕の方法、実例共有
11月 1日	須藤 宏 オンライン 西田 浩一 オンライン Daw Yin May Tun	地質調査(電気探査、掘削など)、地熱調査事例 日本の災害対応事例共有 水中ポンプ基礎理論
11月 2日	U Myint Thein U Zaw Myintほか U Moe Hein	水中ポンプ組み立て実践 MONOポンプ理論と実践 水管理委員会運営モデル
12月 18日	U Zaw Myint(NWSG) U San Lwin	水中ポンプ、操作盤、ポンプ選定基準などの座学 水中ポンプと操作盤の実践訓練
12月 19日	同上	MONOポンプの井戸と水中ポンプの井戸の修繕方法 エンジンなどのメンテナンスや修理訓練
12月 20日	U Moe Hein Daw Thet Thet Swe	水管理委員会の運営基礎知識 マネジメントモデルの議論と共有



3.ヤンゴン事務所の活動

1.運営・組織経営(MOU取得・新規事業準備)

海外NGOがミャンマー国内で活動するにはINGO登録証(団体登録)と、事業内容に沿ったカウンターパートとの覚書(MOU)締結が必須です。BAJはラカイン州におけるインフラ整備を中心とした事業内容なので、ミャンマー外務省の指示に従い村落開発局(DRD)のMOUが必要となります。

2023年11月初旬にINGO登録を取得しましたがMOUが進みません。2024年2月にDRD経由で覚書の修正に応じ国家行政評議会(SAC)へ再提出。5月に協同組合村落開発省からSAC軍へ覚書締結の最終確認を打診中と連絡があったものの具体的な進捗や予定は不明でした。

7月、事務局長がネピドーに出張しDRDと面会し、事業の一部活動(調査、トレーニング、ワークショップ)の許可を得ました。10月9日、ネピドーでDRDと会議の場を持ち、再度のMOU締結の要望やN連事業の進め方、DRD職員向け研修内容などについて話し合いました。12月半ばに突如DRDからMOU調印を年内におこなう旨の通知が届き、再々度事務局長がミャンマーへ出張、12月27日に調印式に臨みました。INGO登録から1年かかりました。

2.管理・労務関連

現地への送金はチャットの不安定化を受け、資金拠出元のUNHCRにUSD通貨による事業予算の許可を得てUSD口座開設手続きを進め、DRDの推薦状を手配して地元KBZ銀行に口座を開設しました。海外送金でUSDを受領した際に政府公定レートではなく実勢レート(ワーカーズレート)で引き出す手続きをKBZ銀行に確認し、5月にはミャンマーの有利レートでの引出しが実現しました。しかし5月下旬以降、銀行間の海外送金はMOUがなければ不可能となり、やむを得ず送金会社SBIレミット(月100万円が限度)やハンドキャリーで対応しました。

労務関連では、年度初めにマウンドー事務所から避難した現地スタッフの避難費用について議論し、適宜関係者へ通知しました。

3.東京本部の出張者

ラカイン事業および中央乾燥地域事業の進捗管理のため、以下の出張を実施しました。

日程	出張者	出張先 / 内容
7月 3日~14日	新石	中央乾燥地域事業の進捗管理、カウンターパート会議など(ヤンゴン、ニャンウー、ネピドー)、その他現金ハンドキャリーなど
10月 7日~12日	新石	カウンターパート会議(ヤンゴン、ネピドー、その他現金ハンドキャリー、JICA打合わせ、UNHCR訪問など)
12月 18日~25日	大野	UNHCR表敬訪問、NRS事業打合せなど
12月24日~1月1日	新石	ネピドーでの覚書調印式、その他

4.ヤンゴン事業(Book & Toyミニライブラリー) 資金:自己資金

3月、DRDに対し本事業の対象村落選定について要望書を提出し、4月にDRDから対象村落リストを受領しました。その後、寄贈先としてヤンゴン郊外のペイナゴン村を選定し、5月3日に2024年1か所目の寄贈を実施しました。8月、2022年に寄贈を実施したマーシー児童ケアセンターにモニタリングをおこない、追加図書の要望が多数あり、9月に海外小説を中心に読みごたえのある図書を再度寄贈。10月、ヤンゴン事務所の独自調査で選定したヤンゴン郊外ダラ地区のイエチャンシン養護施設に書棚寄贈を実施しました。詳細は以下の通り。

実施日	施設名	場所	種別	裨益者
5月3日	ペイナゴン村 図書室	カウムー郡	存立図書館	小学生～高校生313人
10月4日	イエチャンシン養護施設	ダラ郡	養護施設	小学生～高校生45人

5.スマートヴィレッジ事業のための調査

カウンターパートのDRDより「スマートヴィレッジ事業」について提案をいただきました。スマートヴィレッジはミャンマー全土でDRDが選定したモデル村落です。ヤンゴン郊外の人口増加傾向にある村が選ばれていますが、昨今の経済悪化で必要な設備が十分に整備されていません。BAJはリストされている村の現地調査を実施しました。主に衛生環境について調査をおこない、事業を検討しました。来年度以降の実施に結びつけたいと考えています。調査実施した村は以下。

日付	郡	村
9月30日	レゲー	イェン
10月1日	カウム	ペイナゴン
10月3日	タンリン	カインセイ



VIETNAM



ベトナム

フ工連絡事務所

海外支援活動

ベトナム事業報告

ベトナム戦争終結後の1982年からベトナムのホーチミン市やフ工市の貧困地域の子どもや障害児を対象に米や金品を送る支援を続け、2001年には駐在員をホーチミンに派遣し、貧困地域児童の就学支援をきっかけに、学校での環境授業を進めてきました。2002年には拠点をフ工市に移し、就労支援や学習支援をおこない、貧困地域に初の大学進学生徒も生まれました。

2024年には日本の児童生徒と交流が本格化しました。これまで名古屋の中高生国際ボランティアグループ「どえりやあWings」や国際協力に关心を持つインカレグループ「Bizjapan」の学生と、ベトナムの環境グループ生徒をつなげ、オンライン授業などを通じた交流を継続してきました。メンバーが毎年交代するにも関わらず新しい試みに満ちた挑戦的な授業を実施し、3月には代表メンバーの大学生がフ工を訪れ、対面とオンラインで授業を進めることができました。4月初旬には駒場東邦中学高校の高校生40名のスタディツアーハンモックをベトナムで受け入れ、フ工のラムモンクアン中学生とのグループワークは日越双方の子どもに強烈な印象を残しました。

地球規模の課題が山積する時代に、子どもたち自身が国を超えた環境教育のネットワークの輪を広げていくことは、地球規模で起きている環境問題にたいへん重要だと考えます。12月初旬にはベトナムからラムモンクアン中学校長とBAJ環境教育担当職員を招へいし、駒場東邦中学高校を訪問して、マイクロプラスチックの検出授業を見学するなど、環境教育の意見交換の場となりました。駒場東邦の担当教諭や、この取り組みに対し、りそなアジア・オセアニア財團と

経団連自然保護基金の助成は私たちの背中を大いに押していました。

2019年に終了したJICA事業「農畜産業経営強化支援事業」は、その後コロナ対応が数年間継続したこと、直売所本来の目的と価値を曖昧にしたまま継続され、適切な目標がないまま赤字運営を続ける結果となっていました。そこで2024年から現在に至るまで、直売所運営事業見直しを課題として検討会議を継続し、次世代に伝えるべき小農文化の役割や、そのための実践的アプローチなど現地職員と共に考える場としています。近い将来に直売所の独立も視野に入れ、毎週熱い議論の場となっています。

農産物直売所運営のヒントとして、東京の国立を拠点に都市部での農業を推進する「エマリコくにたち」と出会い、代表の方から直接お話をうかがう機会を持つことができました。「都市農業」と直売所運営事業に関してさまざまな知見を得ることができました。今後の連携に期待したいと考えています。

8月には約10年ぶりとなるサポーター向けのスタディツアーハンモックを開催しました。ご支援者やサポーターなど少人数でしたが、多様なメンバーが集まり、現地で元アシジ子として活動したメンバーとの再会など、ベトナム事業の過去・現在・未来を通観するツアーとなりました。

1.環境教育事業

資金:りそなアジア・オセニア財団、経団連自然保護基金、JM基金、輝けアジアの子ども基金

ベトナム・フエのラムモンクアン中学校、トゥイアン小学校、ファムクアン中学校の3校で、環境カリキュラムを進めました。

3月に名古屋の中高生グループ「どえりやあWings」の高校生によるオンライン交流授業を実施しました。代替わりした高校生メンバーは、クイズ、あやとり、ディベートなどを実施しました。

4月は駒場東邦中学高校のスタディツアーフェスに受入れ、生徒41名がラムモンクアン中学校を訪問し、環境教育をテーマにグループワークを実施しました。この交流経験が起点となって、通年による環境教育の授業内容を再検討し、「アクティブラーニング」の要素を導入しました。

7月の課外授業として中学生たちとフーソン廃棄物発電プラントと、ヴァンニエン水処理施設を見学しました。その後「学んだことを小学生に教える」という授業を中学生たち自身にやってもらったところ、子どもたちの創造性に驚かされる経験をしました。

12月にはラムモンクアン中学校校長と環境教育事業担当のBAJスタッフ2名を日本に招へいし、駒場東邦中学高校を訪問して、施設やマイクロプラスチックの授業を見学し、生徒たちの歓迎プログラムに参加して交流を深めました。授業内容は右記。



2.教育支援事業

資金:輝けアジアの子ども基金

毎年1月と9月に奨学金の授与を実施しました。親の失業や病気などで家庭の経済状況に困難を抱えている子どもたちを対象に、各学校の先生と相談して授与を進めました。実施状況は下記の通り。

日付	学校名	学年	人数	金額
2月5日	トゥイアン小学校	1~5年生	20名	300,000 VND/人
9月5日	ラムモンクアン中学校	2~9年生	20名	500,000 VND/人
9月5日	ファムクアンアイ中学校	6~8年生	15名	500,000 VND/人

3.農畜産業経営強化支援事業

資金:自己資金

①バイオガス・ダイジェスター(BD)の管理

過去に設置したBDについて、農家からの問合せはありませんでした。11月中旬、BD設置農家(トゥイスアン地区とフォンロン地区)へのモニタリングを実施し、稼働状況を確認しました。

②直売所事業

2019年の「JICA草の根事業」完了に伴い、直売所1号店を農家グループが引き継ぎ、2号店をBAJが継続することとし、「フエ日本式農家の店」としてリニューアルオープンしました。しかしコロナ禍以降売上げが伸びず、オンライン販売、商品の多様化、無料配送サービスなど努力しましたが、直売所への野菜供給農家は激減しています。

2月より現地職員を含めて直売所事業の再生会議を定例化し、検討してきました。小規模農業の魅力を伝え、食卓に新鮮な食物が届けよう、自ら考え行動する職員養成を目指しています。

情報収集のなかで出会った東京の国立市を中心に周辺農家をつなげ直売所ビジネスを展開する「エマリコくにたち」では、生産者と消費者、こだわり野菜や純正加工品生産者を発掘し、行政機関も巻き込んだコミュニティーを運営し、ビジネスを成功させています。こうした日本発の先進的な取り組みを参考に、現地職員とボランティアも含めて、毎週直売所再生会議を実施し、活性化を進めています。2024年の直売所の経営状況は右記の通り。

期間	売り上げ(VND)	純利益(VND)	利率(%)
1月	193,356,051	3,149,001	1.6
2月	137,949,002	-1,916,448	-1.4
3月	148,278,601	4,624,951	3.1
4月	126,584,541	4,404,891	3.5
5月	135,337,120	3,147,470	2.3
6月	131,140,170	7,331,670	5.6
7月	135,936,842	1,009,074	0.7
8月	135,027,701	147,981	0.1
9月	129,874,570	1,033,580	0.8
10月	150,666,210	4,237,760	2.8
11月	132,439,511	-1,319,839	-1.0
12月	153,275,642	5,299,092	3.5

③直営畠の管理

BAJ直売所が運営する「トゥイビュウ畠」の管理として、毎月2回の収穫や栽培状況報告が東京に提出されています。直売所の野菜を増やす目的以外に、次年度は、消費者教育の場としての機能を本格化することが期待されています。

また2024年度から直営畠運用に掛かる費用負担について、直売所会計から半分支出することとして彼らの自立への意識改革を進めています。



4.エコツーリズム、スタディツアーなど交流事業

(資金:自己資金)

8月、8年ぶりとなるBAJ主催のスタディツアーを実施、さらに春休みや夏休みの時期にかけて各種の研修旅行やツアーを受け入れました。とくにBAJ主催のツアーではホーチミンやフエの貧困地域で活躍した元アジアメンバーと旧交を温めることができ、彼らから感謝の言葉をいただきました。

4月に駒場東邦中学高校の生徒や教師41名が、BAJが環境授業を進めるラムモンカーン中学校を訪問し、グループワークや交流活動を実施しました。このツアーを通じてベトナムの生徒や教師に大きな影響をもたらし、今後も環境をテーマに交流を継続していくことが決まりました。

主催または受入れを行なった研修旅行やスタディツアーの概要は以下。

日時	参加者	内容	参加者
1 3月 2日	学習院女子大学ゼミ(研修旅行)	農家訪問など	学生19名、教師4名
2 4月 2日~3日	駒場東邦中学高校(研修旅行)	ラムモンカーン中学訪問、農家・直売所訪問など	学生37名、教師4名
3 5月 11日	生産者訪問イベント(BAJ主催)	直売所利用の消費者、2軒の農家訪問	消費者7名、子ども2名
4 8月22日~24日	ベトナム・スタディツアー(BAJ主催)	サポーター・会員の国内支援者、直売所、農家、中学校訪問	BAJ支援者4名、職員1名

BAJスタディツアーの詳細は以下。

日付	内容
8月20日	成田発。ホーチミンで戦争証跡博物館見学。
8月21日	ホーチミン観光後、フエに向けて移動
8月22日	フエ事務所と直売所、農家訪問、元アジアメンバーたちとの会合
8月23日	ラムモンカーン中学校訪問、現地スタッフ報告会
8月24日	観光、直売所立ち寄り、ホーチミン移動
8月25日	帰国



5.総務・管理

①NGO登録

4月、事務局長がベトナム出張し、カウンターパートのフエ市経済部と協議。その後再度必要書類を整え申請書類を準備、10月25日に経済部に提出しました。

ベトナム出張スケジュールは右記。

日付	内容
3月31日	Bizjapan 代表と面会
4月 1日	ラムモンカーン中学校事前訪問と打合せ
4月 2日	駒場東邦中学高校・ラムモンカーン中学校受入れ対応
4月 3日	駒場東邦中学高校・直売所および農家訪問受入れ対応 申請書作成と提出(三菱みらい育成財団)
4月 4日	経済部トアンさん面会(事業登録申請相談)、その他関係教育局、管理局など訪問
4月 5日	トアンさんとフーム地区ヴィンミーコミューン視察、打合せ参加
4月 6日	事業計画確認、施設見学、ビジネススキルの情報共有

6.招へい&派遣

①日本招へい

2024年12月にベトナム関係者の日本招へいを実施しました。環境教育の交流事業を進めているラムモンカーン中学校長と、環境担当のBAJ職員2名を迎え、報告会「日越交流から創りだす環境教育活動報告」を開催しました。報告会では、りそなアジア・オセアニア財団専務理事、駒場東邦中学高校で環境授業を進めている担当教諭、ベトナム支援のセンターなどが参加して活発な意見交換ができました。

招へいの実施内容は右記。

日付	内容
12月2日	朝到着、午後事務所移動、挨拶、懇親会
12月3日	駒場東邦中学高校 施設見学、授業見学、交流
12月4日	おもちゃ美術館見学と挨拶、エマリコくにたち経営直売所視察
12月5日	大阪高槻NPOやまと茶房訪問・交流、京都観光
12月6日	発表準備およびシンカブル・ラウンジにおいて報告会「日越交流から創りだす環境教育～ベトナム人校長を迎えての活動報告」を実施
12月7日	東京観光、出国

招へいメンバーは以下

氏名	役職
Nguyen Dinh Can さん	ラムモンカーン中学校校長
Nguyen Thi Quynh Nhu さん	フエ事務所スタッフ(英語通訳など)
Ton Nu Ngoc Camさん	フエ事務所スタッフ(環境教育主担当など)

②国内インターンのベトナム派遣

宇都宮大学から受け入れたインターン2名について、BAJフエ事務所に派遣し、帰国後東京事務所において直売所事業のアイデアなどを報告していただいた。内容は以下。

日付	内容 / 溝渉悠乃さん
2月28日	オンライン打合せ(目的と活動内容の確認)
2月29日	東京事務所において出張準備作業
3月5日	オンライン打合せ(フエ事務所へのあいさつ)
3月10日~22日	フエ 派遣。直売所調査、農家、子どもたち、先生へのインタビューほか、直売所の経営に関する助言と発表
3月25日	東京事務所において帰国報告

日付	内容 / 小野澤彩乃さん
8月14日	オンライン打合せ(目的と活動内容の確認)
8月28日	東京事務所において出張準備作業(フエ事務所あいさつ等)
9月9日~22日	フエ 派遣。直売所調査、農家、子どもたち、先生へのインタビューほか、直売所の経営に関する調査と提案
9月26日	東京事務所において帰国報告



TOKYO



東京本部の活動

2023年、設立30周年を迎えた24年度は新たな10年に向けたスタートの年でしたが、深刻化するミャンマー情勢のなかでどのように活動を進めていくかが鋭く問われた一年となりました。一方、ベトナム事業は、小規模ながら協力者に恵まれ、コロナ禍以降に培ったネットワークを活用した活動が花開く一年となりました。

東京事務所では1月～3月に法人運営に関する作業を集中的に進めました。とくに認定NPO法人格の更新手続きを進め、2029年まで延長することができました。

東京事業として定着した古着回収プログラム「フルクル」は、古着を倉庫に送る際に発生する送料を提供者に負担していただくことが課題となっていました。しかし8月より古紙回収を進めている千葉紙業との協力が実現し、関東以北の利用者にとって送料負担の軽減が実現しました。

最近の傾向として古着回収を事業化する法人が増えており、フルクルもその影響下にあります。フルクルは国際協力支援につながる事業として訴え、今後も拡大ていきたいと考えています。

広報事業では、5月にミャンマー祭りに出展しました。BAJにとっては支援者の方たちやなつかしい人たちと対面でありさつを交わす貴重な機会になりました。また同月よりIT導入補助金制度を活用してホームページを8年ぶりにリニューアル



ルし、8月下旬に公開、BAJの新たな看板ができました。

8月～10月にかけて、実施中の助成金および補助金事業の中間報告書や継続申請書の作成・提出に追われました。

出展では昨年に続きグローバルフェスタにブースを出しました。会場が変わり、事務所近辺だったため移動がスムーズでした。

12月はベトナムの環境教育事業関係者の招へいを進め、活動対象校の校長先生、BAJの環境事業担当職員2名を招へいし、駒場東邦中学高校への訪問をはじめ環境教育の交流を進めました。最終日は関係各機関の方々をお招きして報告会を開催し、今後への布石としました。

また、12月中旬には冬募金の一環としてクラウドファンディング『虹色の未来を描こう』をテーマに、ミャンマーの子どもたちの安全な学びの場を整備する事業へご寄付を募りました。キャンペーンでは「風に歌うミャンマーのかがやき」と題してミャンマーの魅力を伝える記事や動画を作成するなど普段とは違う情報発信を試みながら、支援者の皆さんと目標金額50万円を達成することができました。

経営、組織運営

1.理事会、総会

総会に先立つ2月12日に監査を受け、事業が適正に執行され、会計処理が適正に処理されたことを確認していただきました。2024年度の理事会および第25回総会を開催し、下表にしたがい承認および議決されました。

日付	会議	内容	場所
2月 10日	監査	23年度事業報告・決算報告の適正表示確認	東京事務所
3月 16日	第25回総会 第1回理事会	23年度事業報告・決算報告の承認議決 24年度事業計画・予算の報告	東京事務所本拠のZoom会議
6月 8日	第2回理事会	24年度1月～4月事業報告 第2四半期決算報告	東京事務所本拠のZoom会議
9月 21日	第3回理事会	24年度5月～7月事業報告 第2四半期決算報告	東京事務所本拠のZoom会議
12月 14日	第4回理事会	24年度8月～10月事業報告 第3四半期決算報告 24年度事業計画・予算の議決	JICA東京会議室本拠のZoom会議



2.組織内情報共有

東京在籍職員全員による月例会議を実施し、業務予定、各事業進捗状況、ミャンマー治安情報、ベトナム事業など共有。また月次の寄付・募金状況、各自の業務予定、検討事項などを共有し、議事録を残しています。

ミャンマー・ヤンゴン事務所は週3回、マウンドーは連絡をとれた時に情報共有。

ベトナム・フエ事務所は週2回のオンライン会議を実施、うち1回はフエ直売場事業運営についてボランティアも参加して検討を進めました。

3.人事・労務(インターン・ボランティアの受入れ)

インターンについては宇都宮大学、ドットジェイピーのほかに一般希望者を受け付けました。ボランティアは随時受け入れ、延べ171人を受け入れました。

インターンの受け入れ実績は右記。

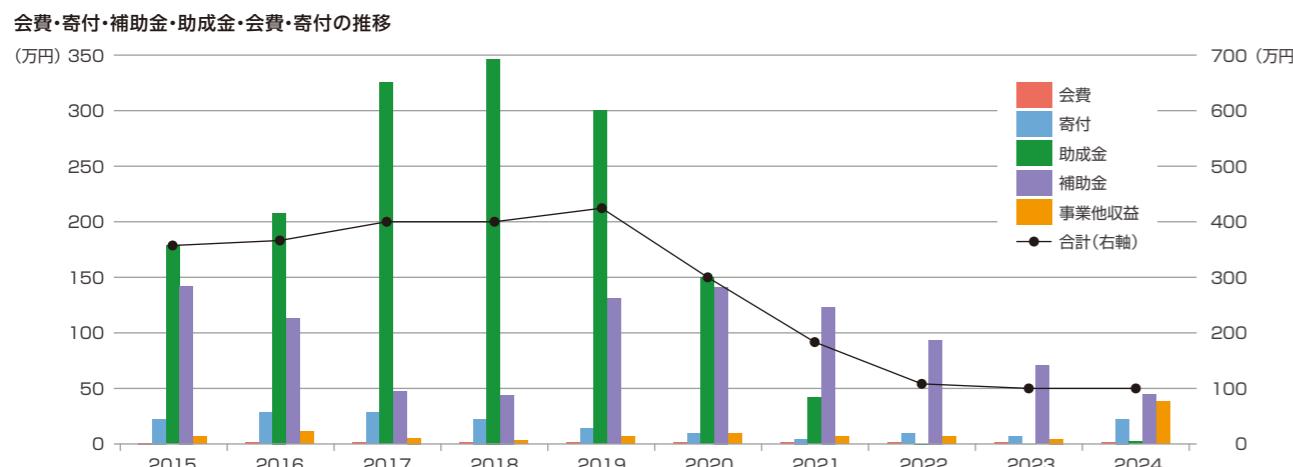
	氏名	所属	期間	内容	紹介
1	郷 実	大学4年	2/28-3/25	イベント企画、その他アシスタント	ドットジェイピー
2	溝潤 悠乃	大学3年	2/28-3/25	ベトナム事業アシスタント	宇都宮大学
3	田島 敏行	企業	前年度から継続	国内事業・法人運営	応募
4	小野澤 彩乃	大学3年	7/30-9/28	ベトナム事業アシスタント	宇都宮大学
5	松島 涼風	大学1年	9～10月(9/23以降中断)	オンラインイベント補助	ドットジェイピー



主な事業と資金調達

BAJの運営資金は、皆さまからの会費、寄付金、フルクルなどの収入、さらに政府や国連機関からの補助金、財団や企業からの助成金によって支えられています。

グラフは、過去10年の種類別獲得資金と資金総額の推移です。2021年以降、助成金収入が激減し、全体の調達資金は縮小傾向ですが、寄付金は微増傾向です。



1.会費

設立当初より個人会費1万円／年、団体会費3万円／年としている。会員は減少傾向。減少要因は、寄付に比べ税制優遇措置が受けられない、地方会員は直接参加が難しいなどが考えられます。会員数の推移は以下。

	個人会員	団体会員
2023年12月末	69名	11団体
新規申込	1名	0
退会	7名	0
2024年12月末	63名	11団体

団体会員としてご協力いただいた企業は以下	
大木組、ケア・センターやわらぎ、国際航業、ダイナックス、	
日光物産、宮館産業、ピロタス、日本開発サービス、トリコ、	
国際ビジネスコンサルティング事業協同組合、テクナレッジ・ジャパン	

2024年度の会費収入は以下	
個人会費	560,000円
団体会費	270,000円
合計	830,000円

2.寄付

あらゆる機会を見つけて「寄付」をお願いしました。冬募金キャンペーンではクラウドファンディングを並行して実施しました。また以前専門家としてミャンマーのマウンダーに派遣した方のご家族から「遺贈寄付」があり、不安定化するミャンマー事業の継続運営を助けていただきました。毎月定額を寄付していただく「輝けアジアの子ども基金」と「まるごとソーター」について今後も拡大を進めています。

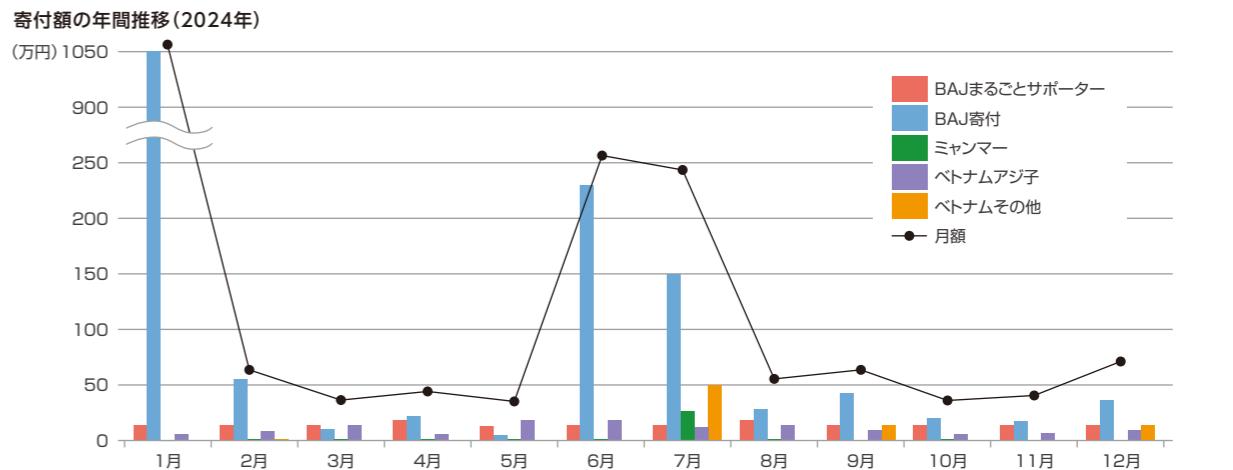
ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

主な寄付にご協力いただいたタイトルと期間・金額は以下。

寄付内容	募集期間	金額
1 冬募金・クラウドファンディング 30周年記念募金	2023年12月～2024年2月	1,296,210 (2023年入金分) 751,000(2024年入金分)
2 ミャンマー事業寄付	2024年1月～12月	606,603
3 ベトナム事業寄付	2024年1月～12月	228,160
4 BAJ寄付	2024年1月～12月	4,971,122
5 夏募金「あの笑顔に出会いたい」	2024年5月～8月	412,000
6 輝けアジアの子ども基金	2024年1月～12月	1,026,000
7 まるごとソーター	2024年1月～12月	1,503,000
8 冬募金「虹色の未来を描こう」クラウドファンディング	2024年12月～2025年2月	255,000 (2024年入金分) 672,378(2025年入金分)
9 遺贈寄付	2024年1月	10,000,000

3.寄付の内訳と金額の年間推移

年間の寄付額の推移は以下。



4.協力団体一覧

活動資金にご協力いただいた団体、法人、組織などは右記の通り。

機関・団体名	
ミャンマー	国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、外務省NGO連携無償資金協力、三義商事、ヤフー、ロイヤリティマーケティング、島田商事
ベトナム	輝けアジアの子ども基金、りそなアジア・オセアニア財団、経団連自然保護基金、宮館産業、キヤノン、島田商事、公益推進協会
BAJ寄付	大木組、大阪マラソン組織委員会、ケア・センターやわらぎ、Omni360、渋谷区区民部地域振興課、ブギ、ピロタス、立教大学コミュニケーション福祉学部、リクルート、ギャップジャパン横浜ベイサイド店、宮館産業、熊谷組
キャンペーン寄付	ピロタス、ケア・センターやわらぎ、ドリーブ外国法務事務弁護士事務所、G&Sフィールド合同会社

5.補助金・助成金

2024年も引き続き事業資金獲得のため還付性のあるドナーについて助成金補助金の申請を以下の通り進めました。

1 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	ミャンマー/支援ニーズ即応事業実施サポートと車両等機械類ワークショップ運営/2024年1月～12月/USD214,992.96
2 外務省NGO連携無償資金	ミャンマー/中央乾燥地域における深井戸修繕による生活用水供給事業/2024年3月～2025年3月/18,962,373円
3 りそなアジア・オセアニア財団	ベトナム/日本とベトナムの学校現場の実践的な交流を通じた質の高い環境教育モデル構築/2024年4月～2025年3月/100万円
4 経団連自然保護基金	ベトナム/日本とベトナムの学校現場の実践的な交流を通じた質の高い環境教育モデルの構築/ 2024年4月～2025年3月/100万円
5 公益推進協会 JM基金	ベトナム/子どもたちによるアジア環境ネットワーク/2024年7月～2025年6月/50万円
6 大阪マラソン大会 組織委員会	大阪マラソン2025チャリティ寄附先団体
7 橋水ハウス マッチングプログラム	ベトナム/質の高い環境教育をベトナムに作り出す/2025年4月～2026年2月/35万円

*1～7は採択 *不採択は5団体:三菱未来育成財団、SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞、国際交流基金地球市民賞、TOTO水環境基金、日本寄付財団

6.外部連携活動

行政機関、国際機関、NGO・NPOの連合体が実施する会合に積極的に参加し、情報共有や交流、さらに共同事業などを進めました。2024年にBAJが参加、あるいはコラボレーションしたネットワーク活動や会合、その活動内容は右記の通り。

団体・グループ名	内容	担当
1 NGO/外務省定期協議会	外務省に対する提案などや意見交換の場	新石
2 ケア・センターやわらぎ	高齢者対象の事業を推進	根本
3 NGO/JICA協議会	JICAとNGOの意見交換と情報共有	新石
4 JANIC/国際協力NGOセンター	国際協力NGOの連携団体	新石
5 バイオメディカルサイエンス研究会	ベトナムでの衛生事業について	新石
6 SDGs市民社会ネットワーク	国連SDGs事業に協力して情報提供や提言活動	根本
7 適正技術フォーラム	持続可能な世界を目指す適正技術の普及・提言活動	職員
8 千葉紙業	古着の寄付活動フルクルを通じてBAJ事業支援	職員
9 日光物産	古着の寄付活動フルクルを通じてBAJ事業支援	職員
10 ドットジェイピー	インターナショナル大学生のマッチング	新石
11 JNN(日本NGOネットワーク)	ミャンマーで活動するNGOの集まり、情報共有	新石
12 どえりやあWings	ベトナムの子どもたちとのオンライン交流授業	新石
13 BizJapan	ベトナムの活動協力と相談など	新石

東京事業

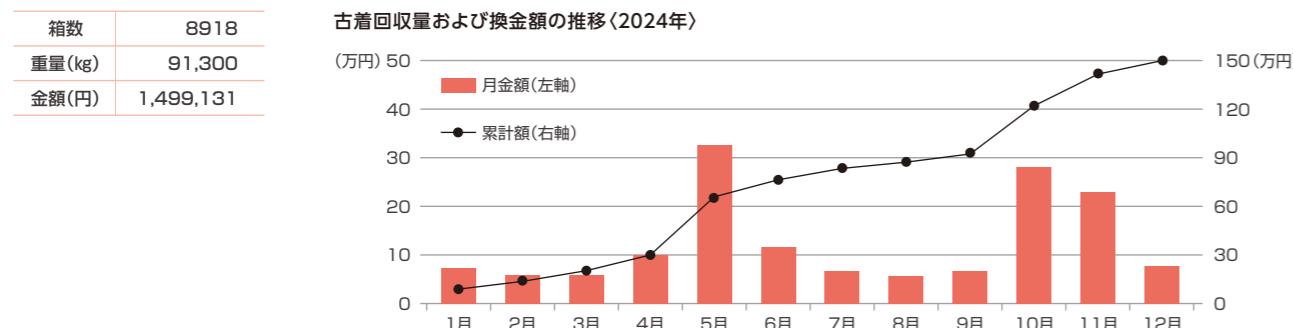
1.フルクル事業

2024年も引き続き古着回収による資金調達「フルクル事業」を継続しました。これまでご協力いただいた日光物産に加え、新たに千葉紙業のご協力を得ることになりました。関東地方以北と関西地方の回収起点ができ、利用者の郵送料を軽減することができました。回収量は前年に対し微増にとどまりましたが、古着再活用に注目が集まっており、古着回収団体や古着店舗が増える傾向にあります。

BAJのフルクルは国際協力につながる事業であることをアピールすることで回収の拡大を進めていきます。またフルクルのチラシを各自治体の社会福祉協議会に配布し、周知と拡大をはかっていきます。

2024年にご協力いただいた団体、法人、グループは133件でした。フルクル利用者に対し「寄付のお願い」チラシを送ることで、応じていただく例も増えています。

2024年の古着回収実績と月次推移は以下。



2.古着回収イベント

2024年は、古着回収イベント期間を1週間以上実施する店舗の増加や複数回開催する店舗が増えています。

期間	開催場所	イベント	箱数
1 2月18日	ラスカ平塚	衣料品&コスメ下取りキャンペーン	8
2 2月23日・24日	ラスカ茅ヶ崎		11
3 3月9日～24日	天然温泉「湯～ねる」	駅前温泉「湯～ねる」国際協力!	12
4 3月11日～31日	イオンモール熱田manolba	リサイクルキャンペーン	2
5 3月15日～24日	オリビア・PLAISIR 各店舗	下取り&買替えキャンペーン	49
6 4月20日～21日	大船ルミネウイング	下取り&買替えキャンペーン	226
7 4月27日～28日	京都MOMOテラス	古着でキャッシュバック	22
8 5月17日～26日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン	844
9 6月8日～9日	横浜ジョイナス	Tシャツ下取りキャンペーン	108
10 9月27日～10月6日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン	746
11 10月1日～15日	SHENT TOKYO	古着交換・寄付キャンペーン	34
12 11月1日～10日	オリビア・PLAISIR 各店舗	下取り買い替えキャンペーン	39
13 11月1日～15日	SHENT TOKYO	古着交換・寄付キャンペーン	26
14 11月2日～3日	横浜ジョイナス	コート下取りキャンペーン	246
15 11月9日～10日	御影クラッセ	古着でキャッシュバック	246
16 12月1日～15日	SHENT TOKYO	古着交換・寄付キャンペーン	40

*箱の大きさは異なるため、箱数は量の多寡を示していない。



広報活動

会員や寄付者を対象に「BAJ 通信・年次報告書」を発行しました。またオンラインによるホームページ、メールマガジン、Facebook、インスタグラム、Xを加え、BAJ活動の広報に努めました。

ボランティアやインターン希望者について個別にオンラインや対面で対応しました。また講義や講演の依頼など極力対応して支援者の拡大に注力しました。

1.BAJ通信、年次報告書の発行

支援者とBAJの活動現場をつなぐ機関紙「BAJ通信」について、151号～154号を発行しました。また年次報告書(2023年)を総会終了後に1回発行しました。BAJ通信の印刷部数は900～1000部で、毎号400～600部前後を支援者や関係機関などに配布しました。

	151号/3月	152号/6月	153号/9月	154号/12月
個人	416	429	428	431
団体	78	93	86	148
合計	494	541	514	579

2.ホームページ

8月に「IT導入補助金」を活用して、ホームページの寄付システムを含め、10年ぶりにリニューアルしました。制作はリタワークスと進め、トップページに設立ストーリーを掲載するなど、設立30年を超えた団体として特色を出しました。

3.BAJメールマガジン／お知らせメールマガジン

2種類のメルマガを隔週で配信しました。通常のメルマガでは、ミャンマーやベトナムの活動報告やコラムを月1回掲載し、事業の進捗状況を掲載しています。お知らせメルマガでは、イベントのボランティア緊急募集や報告会情報を掲載しました。



4.SNSの活用

メルマガのほかに、写真掲載可能なFacebook(フォロワー2,015人)、インスタグラム(投稿 264件、フォロワー251人)、X(フォロワー1,660人)の投稿を継続中です。

5.講演・講義や交流授業、研修、イベントなど

BAJ主催報告会、外部依頼による講演・講義など進めました。講演内容はミャンマー事業にかかる依頼が多い結果となりました。ミャンマー祭り、グローバルフェスタへの出展、また昨年に引き続き大阪マラソンのチャリティ寄付先団体として大阪マラソンエクスボにも出展しました。主な催事は右記。



OL=オンライン、VN=ベトナム				
	会議・講義・イベントなど	内容	担当	場所
1月 10日	取材・テレ朝バンコク支局	BAJ事業取材	新石	OL
2月 5日	出前授業・フエ環境環境授業	VNフエ環境教育	新石	駒場
2月 13日	フルクル事業説明会	アミューズAR	新石	OL
2月 14日	活動紹介・駒場東邦中学校	BAJ環境授業活動	新石	OL
2月 23・24日	出展・大阪マラソンEXPO	BAJ活動紹介	新石	大阪
2月 23日	訪問・大和茶房(大阪)	VN招へい団訪問可能性	新石	大阪
2月 25日	イベント・大阪マラソン出走	活動資金獲得	新石	大阪
3月 2日	ツアーや入れ・学習院女子大	BAJ農家訪問他	新石	VN
3月 7日	訪問・早稲田大学ICC	異文化交流センター	新石	OL
3月 9日	授業・どえりやあWings交流	VN活動事前授業	新石	OL
3月 13日	事前学習・駒場東邦高校	VN環境活動	新石	OL
3月 16日	聴講・高橋教授最終研究発表	ミャンマー社会経済史	新石	OL
3月 17日	授業・どえりやあWings	VNアジアの取組み	新石	
3月 25日	報告会・VNインターン報告会	インターン溝淵さん	新石	OL
3月 27・28日	交流事業・どえりやあWings	ラムモンカン中学校	新石	
4月 2日	受入れ・VNスタディーツアー	駒場東邦中学校生徒	新石	駒場
5月 11日	ボランティア説明会	ミャンマー祭り	新石	事務所
5月 22日	説明会・宇都宮大学	インターン希望者	新石	OL
5月 25・26日	イベント・ミャンマー祭り	BAJ広報と物販	新石・鶴田	芝増上寺
6月 20日	講演・フルクル事業	ソーシャルビジネス研究会	新石	OL
6月 25日	参加・JANIC総会	事業報告など	新石	OL
6月 25・26日	研修・Proms第2・3フェーズ	財務報告・検証報告	新石・大野	OL
6月 30日	東京おもちゃ美術館訪問	ベトナムこども研修	新石・ニン	四谷
7月 2日	ワークショップ・リターワークス	HP作成	新石・根本	OL
7月 16日	講演・初芝学園	BAJ事業	新石	OL
7月 23日	打合せ・日本大使館	ミャンマー事業	新石	OL
7月 25日	打合せ・千葉紙業	フルクル事業	新石	千葉市
8月 13日	来訪・UNHCR	ミャンマー情勢・古川さん	新石・大野	OL
8月 21日	参加・ミャンマー友好協会	セミナー・丸山大使	新石	OL
8月 27日	登壇・二枚目の名刺	イベント新石	新石	OL
9月 13日	セミナー・ミャンマー経済	ミャンマー友好協会	新石	OL
9月 18日	キックオフ・どえりやあWings	ベトナム事業支援	新石	OL
9月 28・29日	出展・グローバルフェスタ	BAJ広報	新石・鶴田	OL
10月 14日	BAJカフェ・オンライン会	今から始める国際協力	新石・田島	OL
10月 30日	報告会・VNインターン	宇都宮大学・小野澤さん	新石・根本	OL
11月 3日	見学・エマリコ国立店舗	VN直売所運営	新石・岡	国立
11月 18日	登壇・JANIC HAPIC イベント	NGOグループコーチング	新石	OL
12月 2~8日	報告会・来日ベトナム招へい団	環境教育交流	新石	各地
12月 6日	報告会・来日ベトナム交流会	VN環境教育報告	根本・新石	原宿
12月 13日	講義・法政大学ゼミ事前学習	BAJ活動紹介	新石	市ヶ谷
12月 14日	理事会・交流会	理事・会員・ボランティア	職員全員	JICA
12月 16日	講演・都立三田高校	フルクル活動紹介	新石	三田



6.海外事業支援

ミャンマー・ラカイン州事業では出張や派遣が困難な状況のなかで、オンラインをはじめあらゆる通信手段を通じて海外事務所と連絡を取りながら、事業に必要な業務を進めました。本部からの支援については「ミャンマー事業」をご参照ください。

①出張

必要と判断した出張を以下の通り実施しました。詳細はミャンマー事業、ベトナム事業を参照ください。2024年の出張実績は以下。

日程	氏名	内容
2月 22日~25日	新石	大阪／大阪マラソンEXPO2024 出展、アンバサダー訪問、やまと茶房打合せ、アーバンリサーチ訪問
3月 31日~4月6日	新石	ベトナム・フエ／駒場東邦中学高校生VN受入れ、VNラムモンカン中学と交流授業、フエ市経済部との協議・教育局関係諸機関への挨拶
7月 3日~14日	新石	ミャンマー／中央乾燥地域事業の進捗管理、DRDとの会議、(ヤンゴン・ナビドー)
8月 20日~24日	新石	ベトナム／BAJベトナムスタディツア一同行
10月 7日~12日	新石	ミャンマー／カウンターパート会議、UNHCR表敬訪問、JICA打合せ
12月 18日~25日	大野	ミャンマー／UNHCR表敬訪問、NRS事業打合せ
12月 24日~1月1日	新石	ミャンマー／ナビドー・MOU調印式

②ベトナム事務所定期会議

フエで実施している直売所事業の運営方針として自立を目指しており、毎週定期的に話し合いの会議を持ちました。会議にはベトナムに関心のあるボランティアも参加し、運営に自覚を持ってもらうため「YWTフォーム」を導入実践するなど、現地職員との話し合いを継続しています。

環境教育事業では、現地担当職員が中心となって環境に関する実験など進めました。また駒場東邦中学高校との連携が実現し、今後の可能性が広がりました。日本とベトナムの子どもたちの交流を通じて環境問題の学びを深めています。定期会議の実施は右記。

ベトナム事務所定期会議実施日
1月 10日、17日、31日
2月 7日、14日、28日、29日
3月 4日、15日、22日、28日
4月 12日、19日、26日
5月 2日、10日、21日、28日
6月 7日、10日、17日、24日、31日
7月 5日、11日、18日、26日
8月 2日、9日、15日、16日
9月 6日、13日、20日、27日
10月 4日、11日、18日、25日、31日
11月 3日、8日、15日、22日、29日
12月 13日、20日、26日



2024年会計報告

活動計算書（自2023年1月1日～至2023年12月31日）

【経常収益】			(単位:円)	
1. 受取会費(注1)		830,000	830,000	
2. 受取寄付(注2)		19,752,885	19,752,885	
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	2,500,000	44,075,544	
	受取補助金(注3)	41,575,544		
4. 事業収益		2,155,444	2,155,444	
5. その他収益		25,018,211	25,018,211	
経常収益計(A)			91,832,084	
【経常費用】			(単位:円)	
1. 事業費	人件費	47,305,036	63,305,780	
	その他経費	16,000,744		
2. 管理費	人件費	6,872,209	12,994,824	
	その他経費	6,122,615		
経常費用計(B)			76,300,604	
【経常外費用】				
3. 経常外費用	補助金返還額	26,463,316	26,463,316	
経常外費用計(C)			26,463,316	
当期経常増減額(A)-(B)		15,531,480		
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)		-10,931,836		
前期繰越正味財産額(D)		71,571,474		
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)		60,639,638		

事業別損益の状況

科目	ミャンマー			ベトナム事業	国内事業	事業部門 合計	管理部門	合計
	ラカイン州 地域開発事業	ラカイン州 学校校舎建設と コミュニティ開発	中央乾燥地域に おける生活用水 供給事業					
I 経常収益								
1 受取会費	0	0	0	0	0	830,000	830,000	
2 受取寄付金	313,717	0	82,386	1,254,160	269,287	1,919,550	17,833,335	19,752,885
3 受取助成金等								
受取助成金	0	0	0	2,500,000	0	2,500,000	0	2,500,000
受取補助金	31,114,585	0	9,074,737	0	0	40,189,322	1,386,222	41,575,544
4 事業収益	550	0	164	490,500	1,608,730	2,099,944	55,500	2,155,444
5 為替差益	0	0	0	0	0	0	24,863,766	24,863,766
6 その他収益	315	0	150,166	10	0	150,491	3,954	154,445
経常収益計	31,429,167	0	9,307,453	4,244,670	1,878,017	46,859,307	44,972,777	91,832,084
II 経常費用								
(1)人件費								
給与手当	39,145,421	0	5,554,952	2,604,663	0	47,305,036	5,112,352	52,417,388
法定福利費	0	0	0	0	0	0	1,603,857	1,603,857
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	156,000	156,000
人件費計	39,145,421	0	5,554,952	2,604,663	0	47,305,036	6,872,209	54,177,245
(2)その他経費								
資機材費	1,739,972	0	644,906	597,718	0	2,982,596	0	2,982,596
派遣専門家費	0	0	0	0	0	0	0	0
広報印刷費	0	0	0	21,989	885,087	907,076	2,090,000	2,997,076
旅費交通費	1,638,910	0	1,363,417	673,191	0	3,675,518	173,647	3,849,165
通信運搬費	358,481	0	28,564	44,097	508,116	939,258	116,048	1,055,306
消耗品費	834,748	0	104,032	29,622	0	968,402	1,306,146	2,274,548
修繕費	686,942	0	171,058	6,759	0	864,759	0	864,759
賃借料	1,295,593	0	179,963	497,217	0	1,972,773	941,915	2,914,688
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	6,900	10,780	0	17,680	194,007	211,687
調査研究・研修費	8,945	0	1,677,746	0	0	1,686,691	0	1,686,691
諸会費	0	0	0	0	0	0	240,880	240,880
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	1,782,892	0	2,743	11,751	0	1,797,386	348,550	2,145,936
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	130,743	0	38,171	19,691	0	188,605	641,422	830,027
その他経費計	8,477,226	0	4,217,500	1,912,815	1,393,203	16,000,744	6,122,615	22,123,359
経常費用計	47,622,647	0	9,772,452	4,517,478	1,393,203	63,305,780	12,994,824	76,300,604
当期経常増減額	-16,193,480	0	-464,999	-272,808	484,814	-16,446,473	31,977,953	15,531,480

貸借対照表（2024年12月31日現在）

【資産の部】		(単位:円)	
	現金預金	現金	758,461
流動資産		流動性預貯金	55,823,125
		ミャンマー現預金	38,049,025
		ベトナム現預金	633,483
		商品	10,283
	流動資産	立替金	195,363
		未収入金	0
		前払金	0
		仮払金	107,121
		未成工事支出金	0
固定資産	有形固定資産	機械装置	1
	投資その他の資産	敷金	0
資産合計			95,576,862

【負債の部】

【負債の部】		(単位:円)	
流動負債	未払法人税	70,000	
	その他未払金	9,700	
	前受会費	10,000	
	前受寄付金	0	
	前受助成金	0	
	前受補助金	9,887,636	11,607,925
	その他前受金	0	
	預り金	302,512	
	仮受金	1,328,077	
固定負債	退職給付引当金		2,469,299
	長期借入金		60,000
	長期返還金		20,800,000
負債合計			34,937,224

【正味財産の部】

【正味財産の部】		(単位:円)	
前期繰越正味財産		71,571,474	
当期正味財産増減額		-10,931,836	
正味財産合計		60,639,638	
負債及び正味財産合計		95,576,862	

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針						

<tbl_r